

平成 26 年 2 月 16 日 (日) 施行

第 173 回 全経簿記能力検定試験 2 級 商業簿記 解説

第 1 問

- 仕入原価 ¥250,000 と諸費用 ¥8,000 を積送品勘定へ振り替える。
- 前期末に以下のとおり見越し処理している。

(借) 未 収 利 息	36,000	(貸) 受 取 利 息	36,000
-------------	--------	-------------	--------

これを当期首に再振替。

- 株主総会で決議された配当金は未払配当金として処理されている。これを小切手で支払う。
- 売却時の帳簿価額は ¥600,000 - ¥480,000 = ¥120,000
売却価額は ¥70,000 なので、売却損 ¥50,000 が生じた。
- ¥1,200,000 は完成前に支払われているので、建設仮勘定として処理されている。
完成、引き渡しにより、小切手 ¥1,800,000 とともに建物勘定に振り替える。
- 貸倒処理していた債権が回収された場合は、償却債権取立益 (収益) で処理する。
- 会社設立のために要した費用なので「創立費」である。これを償却する。

第 2 問

① 売上総利益

$$\text{純売上高} = \text{当期総売上高} - \text{当期売上返品高} = ¥9,463,000 - ¥124,000 = ¥9,339,000$$

$$\text{純仕入高} = \text{当期総仕入高} - \text{当期仕入返品高} = ¥7,425,000 - ¥136,000 = ¥7,289,000$$

仕 入		損益計算書	
期首商品	685,000	売上原価	7,226,000
純仕入高	7,289,000	売上原価	7,226,000
	期末商品	748,000	純売上高
		原価以外の費用	1,918,000
		当期純利益	453,000
			売上以外の収益
			X

$$\text{売上原価} = \text{期首商品} + \text{純仕入高} - \text{期末商品}$$

$$= ¥685,000 + ¥7,289,000 - ¥748,000 = ¥7,226,000$$

$$\text{売上総利益} = \text{純売上高} - \text{売上原価} = ¥9,339,000 - ¥7,226,000 = ¥2,113,000$$

② 期末純資産(資本)

期首貸借対照表			期末貸借対照表			
現金・預金	586,000	買掛金	638,000	現金・預金	578,000	
売掛金	785,000	期首純資産	売掛金	874,000	買掛金	614,000
商 品	685,000		商 品	748,000	期末純資産	

$$\text{期末純資産} = \text{期末資産} - \text{期末負債}$$

$$= (¥578,000 + ¥874,000 + ¥748,000) - ¥614,000 = ¥1,586,000$$

③ 当期純利益

$$\text{期首純資産} = \text{期首資産} - \text{期首負債}$$

$$= (¥586,000 + ¥785,000 + ¥685,000) - ¥638,000 = ¥1,418,000$$

$$\text{期末純資産} = \text{期首純資産} + \text{資本追加元入高} - \text{資本引出高} + \text{当期純利益より}$$

¥1,586,000 = ¥1,418,000 + ¥150,000 - ¥435,000 + 当期純利益

当期純利益 = ¥453,000

④売上原価を除く期間中の費用総額 X

損益計算書の借方合計は ¥7,226,000 + ¥1,918,000 + ¥453,000 = ¥9,597,000

純売上高は ¥9,339,000 なので、X は ¥9,597,000 - ¥9,339,000 = ¥258,000

第3問

解答用紙と問題文から、**現金出納帳、当座預金出納帳、売上帳、仕入帳**を特殊仕訳帳として用いている。勘定科目のうち、**現金、当座預金、売上、仕入**に関しては、月末に合計転記するので、仕訳帳の元丁欄は「✓」を記入する。売掛金は得意先(売掛金)元帳の丁数を記入する。

				(元丁)					(元丁)
1月20日	(借)	当座預金	240,000	✓	(貸)	売掛金	240,000	得1	
					(青森商店)				
24日	(借)	売掛金	350,000	得2	(貸)	売上	350,000	✓	
					(山形商店)				
25日	(借)	売上	40,000	✓	(貸)	売掛金	40,000	得2	
					(山形商店)				
27日	(借)	当座預金	80,000	✓	(貸)	現金	80,000	✓	
29日	(借)	当座預金	100,000	✓	(貸)	売上	250,000	✓	
						売掛金	150,000	得1	
					(青森商店)				

第4問

1. 香川商店からの仕入

仕入金額 ¥288,000 ⇒ 仕入伝票

(借) 仕入	288,000	(貸) 買掛金	288,000
--------	---------	---------	---------

※5伝票制なので、仕入伝票の金額はすべて買掛金となる。

代金のうち ¥38,000 は現金で支払っている ⇒ 出金伝票

(借) 買掛金	38,000	(貸) 現金	38,000
---------	--------	--------	--------

2. 徳島商店への売上

売上金額 ¥360,000 ⇒ 売上傳票

(借) 売掛金	360,000	(貸) 売上	360,000
---------	---------	--------	---------

※5伝票制なので、売上傳票の金額はすべて売掛金となる。

代金のうち ¥100,000 は小切手で受け取り、⇒ 入金伝票

(借) 現金	100,000	(貸) 売掛金	100,000
--------	---------	---------	---------

残額 ¥260,000 は約束手形で受け取った。⇒ 振替伝票

(借) 受取手形	260,000	(貸) 売掛金	260,000
----------	---------	---------	---------

3. 高知商店からの返品

返品処理も売上傳票を用いる。通常の掛売上と逆の仕訳になる。

(借) 売上	15,000	(貸) 売掛金	15,000
--------	--------	---------	--------

X 商品

前月繰越	@ ¥3,000	60 個	¥180,000	@ ¥3,120	80 個	¥249,600	1 日売上
1 日仕入	@ ¥3,200	90 個	¥288,000				
				@ ¥3,120	70 個	¥218,400	次月繰越

移動平均法より、1 日の払出し単価は

$$(\text{¥}180,000 + \text{¥}288,000) \div (60 \text{ 個} + 90 \text{ 個}) = @ \text{¥}3,120$$

よって 11 月 1 日の売上原価は $@ \text{¥}3,120 \times 80 \text{ 個} = \text{¥}249,600$

$$\text{売上総利益} = \text{¥}360,000 - \text{¥}249,600 = \underline{\text{¥}110,400}$$

第 5 問

未達事項

1.	(借) 買掛金	80,000	(貸) 支店	80,000
2.	(借) 本店	50,000	(貸) 売掛金	50,000
3.	(借) 仕入	60,000	(貸) 本店	60,000
4.	(借) 現金	100,000	(貸) 支店	100,000

支店		本店	
※1,142,000	80,000	50,000	※952,000
	100,000		60,000
	962,000	962,000	

※残高試算表より

以上より、本店勘定・支店勘定の一致する金額は ¥962,000

決算整理事項

1. 期末商品

支店の期末商品棚卸高は未達分を加えて $\text{¥}960,000 + \text{¥}60,000 = \text{¥}1,020,000$

期首商品棚卸高は残高試算表より

$$\text{本店分} + \text{支店分} = \text{¥}1,280,000 + \text{¥}1,040,000 = \text{¥}2,320,000$$

期末商品棚卸高は

$$\text{本店分} + \text{支店分} = \text{¥}1,310,000 + \text{¥}1,020,000 = \text{¥}2,330,000$$

(借) 仕入	2,320,000	(貸) 繰越商品	2,320,000
繰越商品	2,330,000	仕入	2,330,000

2. 貸倒引当金の計上

売掛金の残高は、残高試算表の本店、支店分の合計から未達事項の回収分を控除して

$$\text{¥}1,340,000 + \text{¥}760,000 - \text{¥}50,000 = \text{¥}2,050,000$$

$$\text{¥}2,050,000 \times 4\% = \text{¥}82,000$$

洗い替え法で処理するので、貸倒引当金残高（本店 $\text{¥}22,000$ + 支店 $\text{¥}7,000$ ） $\text{¥}29,000$ を戻し入れた後に $\text{¥}82,000$ を繰り入れる。

(借) 貸倒引当金	29,000	(貸) 貸倒引当金戻入	29,000
貸倒引当金繰入	82,000	貸倒引当金	82,000

3. 減価償却費の計算

(本店備品)

取得価額は¥1,600,000、耐用年数5年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、
 $¥1,600,000 / 5年 = ¥320,000$

(借) 減 価 償 却 費	320,000	(貸) 備品減価償却累計額	320,000
---------------	---------	---------------	---------

(支店備品)

取得価額は¥1,000,000、耐用年数5年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、
 $¥1,000,000 / 5年 = ¥200,000$

(借) 減 価 償 却 費	200,000	(貸) 備品減価償却累計額	200,000
---------------	---------	---------------	---------

減価償却累計額は

$¥640,000 + ¥400,000 + (¥320,000 + ¥200,000)$ (当期減価償却費) = ¥1,560,000

4. 消耗品費の処理 (本店・支店合計)

(借) 消 耗 品	209,000	(貸) 消 耗 品 費	209,000
-----------	---------	-------------	---------

5. 保険料の繰延べ (本店・支店合計)

(借) 前 払 保 険 料	168,000	(貸) 保 険 料	168,000
---------------	---------	-----------	---------

6. 支払利息の見越し (本店・支店合計)

(借) 支 払 利 息	42,000	(貸) 未 払 利 息	42,000
-------------	--------	-------------	--------

7. 受取手数料の繰延べ (本店・支店合計)

(借) 受 取 手 数 料	34,000	(貸) 前 受 手 数 料	34,000
---------------	--------	---------------	--------